

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホーム「ゆりかもめ」	ユニット名	ゆり
所在地	東臼杵郡門川町東栄町4-5-14		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanji=true&ijiyosyoCd=4572100610-00&ProfCd=454VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が、自分らしさを失わず、他入居者の方と交流をしながら楽しく生活をし、自分の意見を素直に職員に伝えられるような雰囲気を作っていくよう心掛けている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の半数以上が永年勤続者であり、職場の人間関係が良好で、職員同士のつながりを大切にし、利用者に寄り添うケアの提供に努めている。理念である「その人のペースでその人らしく、笑顔で生活できる」を常に意識し、自分の親が利用できるホームを目指して、日々努力している。利用者から、「ここに入ってよかった」との言葉を聞くことができた。母体が、隣接する病院ということもあり、緊急時の対応支援を受けることができる関係にある。なじみのスーパーや公園が近くにあり、外出環境に恵まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人のペースでその人らしく、笑顔で生活できる」を理念とし、各入居者の方のペースに合わせた介助を職員で共有している		会議等で話し合う機会はないが、毎月、理念を載せたホーム便りを職員が交代で作成し、管理者は常に職員に理念を伝え、共有しながら、ケアの提供につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の方のADL低下に伴い、以前に比べ、地域へ足を延ばす機会が少なくなっている(買い物・外出等)		運営推進会議で地区行事の案内があり、利用者が行事に参加したり、ホームの行事は地区の回覧板で案内し、住民が参加している。近所の方によるボランティアの来訪や高校生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所からの働き掛けはしていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の状況を報告し、地域の方の意見も取り入れ、参考にさせてもらっている		年に1度、利用者と会議メンバーとの交流会を開催している。会議で地区行事の案内があり、利用者の参加につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会ある事に報告・連絡をし、協力関係を築くよう努力している		町の担当者と日頃から相談できる関係にあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる		身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいるが、言葉遣いや声掛けなど、全職員が基準を正しく理解できていない場面もみられ、注意喚起を行っている。	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について、今一度確認し、職場研修を行うなど、職員の共有意識を高める取組を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	なるべく平常心を保ち、感情的にならないよう気を付けている。 虐待行為なし			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している入居者の方はいないが、必要な場合が出てくれば支援していく			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前の見学や説明は、その都度対応し、納得して頂いた上で入居して頂いている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、御家族の方は何かあれば直接話される事も多く、管理者・職員で共有し、問題解決に努めている		利用者からの食事の献立や外出希望などを運営に反映させている。家族からの意見や要望に対して、速やかに対応し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議は行っていないが、毎日の申し送りで職員の意見は聞いている		職員から重度の利用者への対応について意見が出され、勤務時間を調整変更し、柔軟な勤務体制による対応を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、上の方に給与等の事を話してくれているが、変わっていない			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合った研修の受講を勧めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入会しており、ブロック研修会への参加等、交流する機会をつくっている			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の話を傾聴し、不安なこと・要望を確認し、関係作りに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント作成の際、管理者が対応し、ご本人の希望・ご家族の希望も十分に考慮し、より良い関係が築けている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度話を聞いて対応している			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事は見守りながら、してもらっている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な状況・状態は、その都度報告しており、ご家族と共に支援出来ている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚等の面会時の対応や来やすい雰囲気作りに努める。 ご本人希望の理・美容室又は金融機関等に行けるよう支援している	友人、家族等の来訪や遠方の家族との関係継続を支援している。なじみの場へ散歩に行ったり、スーパーや理・美容室などの利用を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者の方々一人ひとりに声かけを行う 個々の性格を知り、入居者同士楽しく関わり合えるよう支援している			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の相談や要望があれば、必要に応じている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や要望を聞き、話し合いながら添うよう、職員全員努力している		利用者に寄り添い、毎日の生活の中から本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞いた生活歴などを参考に、一人ひとりの暮らしの把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の勤務交代時には申し送りを行い、記録し、職員全員現状を把握している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との話し合い、また、情報や職員の気付き、観察などを基に、現状に即した介護計画を作成している		毎月モニタリングを行い、家族に情報提供を行い、意向を取り入れ、変化がある時は担当職員から報告があり、介護計画に反映させている。しかし、全職員が担当外の利用者の介護計画を共有し、実践につなげるまでには至っていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録・観察や職員間での意見などを参考にし、介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて、ご本人やご家族の要望に対応するよう柔軟に対応し、取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、ボランティア等と協力しながら、支援を行っている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援を行っている	母体の病院がかかりつけ医になっており、職員による受診支援を行っている。町外の医療機関や専門医受診には、情報を提供し、家族による受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援を行っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の病院と隣接しており、急変時、受診等の対応等を行っている。 また、Ns. が常勤している			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者により、ご家族との話し合い・説明等を行っている。 また、母体との連携に努めている	本人、家族等、関係者に説明し、話し合いながら方針を共有しているが、文章化までには至っていない。	医療連携体制の同意書中の「終末期生活支援に関する同意書」等の覚え書きを作成し、方針を共有した支援の取組に期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院職員と一緒に、AED訓練等に参加している			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防からの指導を受けている。経営母体の病院職員の寮や社宅が近くにあり、非常時の協力体制は出来ている	定期的に訓練を行っている。地域の避難場所が隣接する経営母体の病院になっており、地域住民や病院職員等の協力、支援が得られる体制にある。今後、支援協力者への介助体験等を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じて対応し、トイレの声かけ等は側に行き、その人だけに聞こえるよう、プライバシー保護に努めている	耳元での声掛けやさりげない誘導で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際の調味料の選択やおやつ時の飲物等を聞き、選択の決定が出来るように支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出等は、出勤者が少ない時は難しい場合もあるが、出来るだけ希望に沿って支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室はどこに行きたいか希望を聞いている。 一緒に服を買いに行くときもある			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みやアレルギーだけでなく、量も気を付けている。 片付け・台拭き等、積極的にしてもらっている	献立や飲み物の希望を聞いている。職員は、調理の下ごしらえや片付け、台拭きなどを利用者と一緒にいき、全職員が利用者と一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜の量は少なくならないよう心掛けている。 水分はその人のペースに合わせて、ゆっくりでも摂ってもらっている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ・見守りをし、介助が必要な方は付き添い、行っている			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録を確認し、必要があれば、声かけ誘導している。 見守りがいる方は、必ず職員が付き添っている		声かけ、誘導により、トイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づいて、専属の看護師に相談や対応をしてもらっている。 牛乳摂取や体操参加を促している			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけにて希望を聞き優先するが、拒否の多い方は、管理者や看護師も声かけをし、協力している		入浴は午後の時間帯に設定しているが、希望があれば、柔軟に対応している。拒否傾向の強い利用者に対しては、全職員で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節は気を配り、寝具の清潔保持や整理を行い、支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が全て理解しているとは言いきれませんが、その都度状態に応じた服薬法や変化の確認をするよう努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝い、好きな事への声かけ等を実施し、本人の希望、気分転換などは様子を見、その都度声かけするようにしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の出勤状況や受診・リハビリなどでなかなか応じられない時もありますが、ご家族の協力を求めたり、計画を立て、出来るだけ支援出来るよう努めている		日常的に外気浴や散歩、買い物などの外出を支援している。誕生会や昼食会に同法人内の通所事業所の送迎車を活用し、外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持希望者には自身で管理してもらい、ご本人の希望にて使えるように努めているほか、職員が管理している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員がかけ、ご本人に代わり、話してもらうよう努めている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、室温調整など十分に努め、壁には季節により折り紙等を飾り、写真もこまめに貼り替え、楽しんでもらえるようにしている		共用空間は、利用者が安心してゆっくり過ごせるような工夫をしており、利用者の作品や日常の様子、行事ごとの写真を掲示し、ホームで楽しく生活できるようにしている。また、玄関や玄関先に椅子やベンチを配置し、居場所づくりにも工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・玄関先などに、イス、ベンチを置き、各々が思い思いに過ごせるようにしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者が、居室に使い慣れた物を置いており、その方の状態・状況に応じ、家具、模様替えなどを行っている		使い慣れたものを持ち込んでいる。居室の整理は本人ができる範囲は本人に任せ、居心地よく過ごせるよう支援している。転倒の危険がある利用者のベッドを、居室入口近くに配置し、転倒予防に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一目でトイレ・お風呂・居室が分かるよう、札などに工夫をしている			